

K-45 II 型 周波数短絡器の特徴

(C-ATS 動作機能確認用)

図1 平常時 (列車無(無短絡))

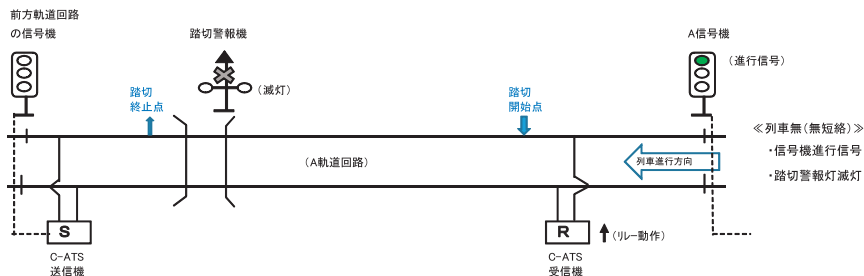
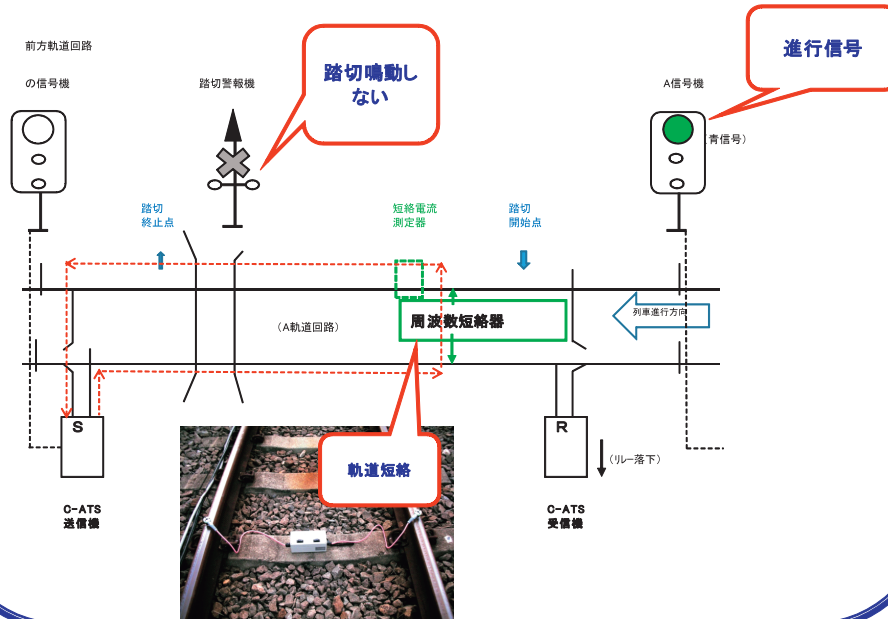


図1の状態では検査のため軌道短絡すると、踏切鳴動が発生し、後方の信号現示が「停止」となります。図2のように周波数短絡器 (K-45 II 型) を使用して短絡電流測定検査をすれば、指定する周波数のみ短絡するので、踏切用軌道回路や列車検知に影響しません。

図2 C-ATS短絡電流測定検査(K-45 II 周波数短絡器)



特徴

1. 「軌道回路 (地上信号機、踏切制御)」に影響を及ぼさない！
⇒ 列車間合いの少ない昼間作業が可能
2. 踏切使用停止および線路閉鎖手配が不要！
3. 全体で「作業人工 (人件費)」の軽減を図ることが可能！

* 導入実績 京成電鉄株式会社殿